

授業科目名 (英文表記)	世界農業遺産 (Globally Important Agricultural Heritage Systems)		
単位数	2 (学部生のみ)	授業形態	講義・演習
担当教員	養父 志乃夫、原 祐二 (多様なゲスト講師・現地ステークホルダーの支援も得る)		
開講	南紀熊野サテライト	区分	学部開放科目
実施日・時間	① 12月8日(土) 13:00~17:00	システム工学部	養父・原 (国連大学/地球研)
	② 12月15日(土) 9:00~17:00	システム工学部	養父・原 (高橋純一、石神忠夫)
	③ 12月16日(日) 9:00~13:00	システム工学部	養父・原 (原 正昭、松本 貢)
	④ 2月2日(土) 9:00~16:00	システム工学部	養父・原

#### 【授業のねらい・概要】

みなべ・田辺の梅システムが世界農業遺産に認定されたこともふまえ、世界農業遺産とは何か、当地の農業遺産のシステムと生態系の価値について、一般的な生態学の知見も交えながら、座学と現地生態系演習により習得する。地元世界農業遺産協議会の全面的な支援のもと、将来的な農業遺産のシステムを説明・活用できる人材を育成する。本講義は「みなべ・田辺地域世界農業遺産推進協議会」による寄附講義である。

#### 【授業計画】※記載の内容は、変更することもあります。

##### 第1回 12/8 午後13:00~17:00 (会場：ビッグユーン、現地踏査：石神梅林)

1. 世界農業遺産と日本 (国連大学/地球研 研究者招聘予定) ビッグユーン
2. みなべ田辺の梅システム (養父) ビッグユーン
3. 現地踏査 (養父・石神忠夫) 石神梅林

##### 第2回 12/15 9:00~17:00 (会場：午前中ビッグユーン；昼食後、午後演習：梅振興館、他)

4. 梅システムのランドスケープ評価 (原) ビッグユーン
5. 梅システムとニホンミツバチ (高橋純一・京都産業大学准教授) ビッグユーン  
昼食 (梅料理評価)
6. 生態系現地演習 (石神梅林・石神忠夫)
7. 梅システムの歴史 (梅振興館・中早良太)
8. ステークホルダーミーティングおよび食文化調査 (夕食交流会 鶴の湯)

##### 第3回 12/16 9:00~13:00 (演習先：清川地区)

9. 備長炭生産調査 (原正昭)
10. 薪炭林持続性調査 (松本貢)
11. 役場・協議会担当者による申請プロセス、合意形成、今後の展望の説明

##### 第4回 2/2 9:00~16:00 (演習先：南部梅林、会場：ビッグユーン)

12. 観梅状況・ランドスケープ調査 (養父) 南部梅林
13. 班別作業 (ビッグユーン)  
昼食 (ビッグユーン地産地消レストラン)
14. まとめ発表 (ビッグユーン)
15. 梅システムの今後の展望、総括 (ビッグユーン)

#### 【到達目標】

世界農業遺産の概念と梅システムの特徴について、社会生態学的観点から理解を深め、他者に対し現地で科学的・論理的に説明できるようになること。

#### 【教科書】

特に定めません。必要に応じて資料を配布します。

#### 【参考書・参考文献】

梅システム申請書など、以下よりダウンロード可能。必ず事前に確認・予習しておくこと。

<https://www.giahs-minabetanabe.jp/>

#### 【関連報文】

<https://doi.org/10.2750/arp.35.379>

#### 【授業時間外学習】

授業に先立つ2018年8月最終週に、南部ロイヤルホテル(予定)を中心会場として、国際会議「東アジア農業遺産学会」が開催される予定です。世界の専門家のレクチャー、意見交換ができるまたとない機会ですので、予習の意味も込めて積極的に参加することを強く推奨します。詳しくは上に記載した協議会のウェブサイトを確認し、また不明点は協議会や本授業担当者にも照会して下さい。

#### 【履修上の注意・メッセージ】

多くの現場の方々に支えられたカリキュラムであり、受講者は極力全日程参加すること。また、受身にならず、積極的に議論に参加し、自己成長を希求すること。みなべ田辺地域に関心を持ち、かつ客観的に梅システムを世界・日本の農業システムの中に位置づける熱意を有すること。PCやタブレットがあれば各自持参すること。(必須ではない)また、講義内容は、より多くの方に受講いただきたいため、昨年とほぼ同じ内容です。カリキュラムの都合上、15-20名程度先着順とします。受講希望者が多い場合、新規の方を優先に受け入れることをご了承下さい。